

# 道南太平洋海域スケトウダラニュース

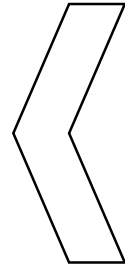
平成20年度 第1号

2008年9月30日

北海道立栽培水産試験場  
調査研究部

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605



## 道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成20年8月28日～9月2日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～500m海域

水深200m以深の水温は5 以下とスケトウダラに好適  
スケトウダラの反応は弱く、平均反応量は前年同時期より減少  
反応の比較的強い水深は200～300m  
漁期はじめ（10～11月）の漁獲は少ない予想

- 1．調査海域の水深200m以深の水温は5 以下となっていました。現在のところ、水温環境はスケトウダラにとって好適なようです。
- 2．スケトウダラと考えられる魚群は水深150～400mの範囲に観察されましたが（図1、2）、魚群の反応は弱く、平均反応量は前年同時期より減少しました（図3）。
- 3．比較的強い反応が観察された海域は、日高海域の167、168海区、胆振海域の176、179、182、185海区、渡島海域の189海区でした（図1）。
- 4．トロール調査の結果、水深150～250mの反応はスケトウダラ成魚と小型の未成魚、300m以深はスケトウダラ成魚とイトヒキダラと考えられました。
- 5．魚探反応とトロール調査の結果から、漁獲対象となるスケトウダラ成魚は水深200～300mに多いと推測されます。
- 6．スケトウダラの反応量から判断して、10～11月の漁獲量は2万トン未満の少ない年になると予想されます（図3）。
- 9．漁期前の計量魚探調査は、漁期はじめ（10～11月）の状態を調べるために実施しているものです。12月以降の状態は、11月末に実施する調査により予測する予定です。

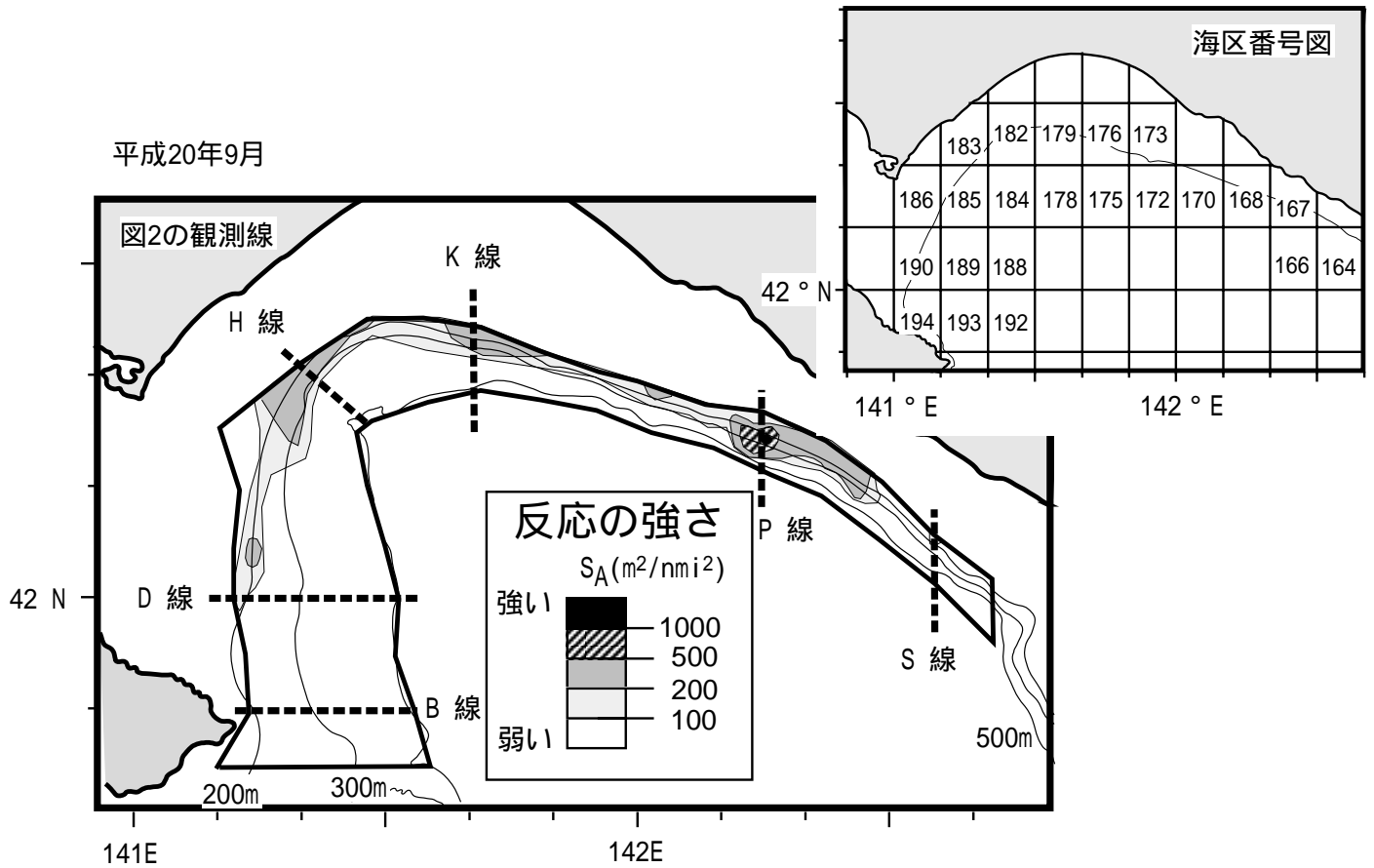


図1. 調査海域における魚群の分布  
黒ワクの中が調査範囲

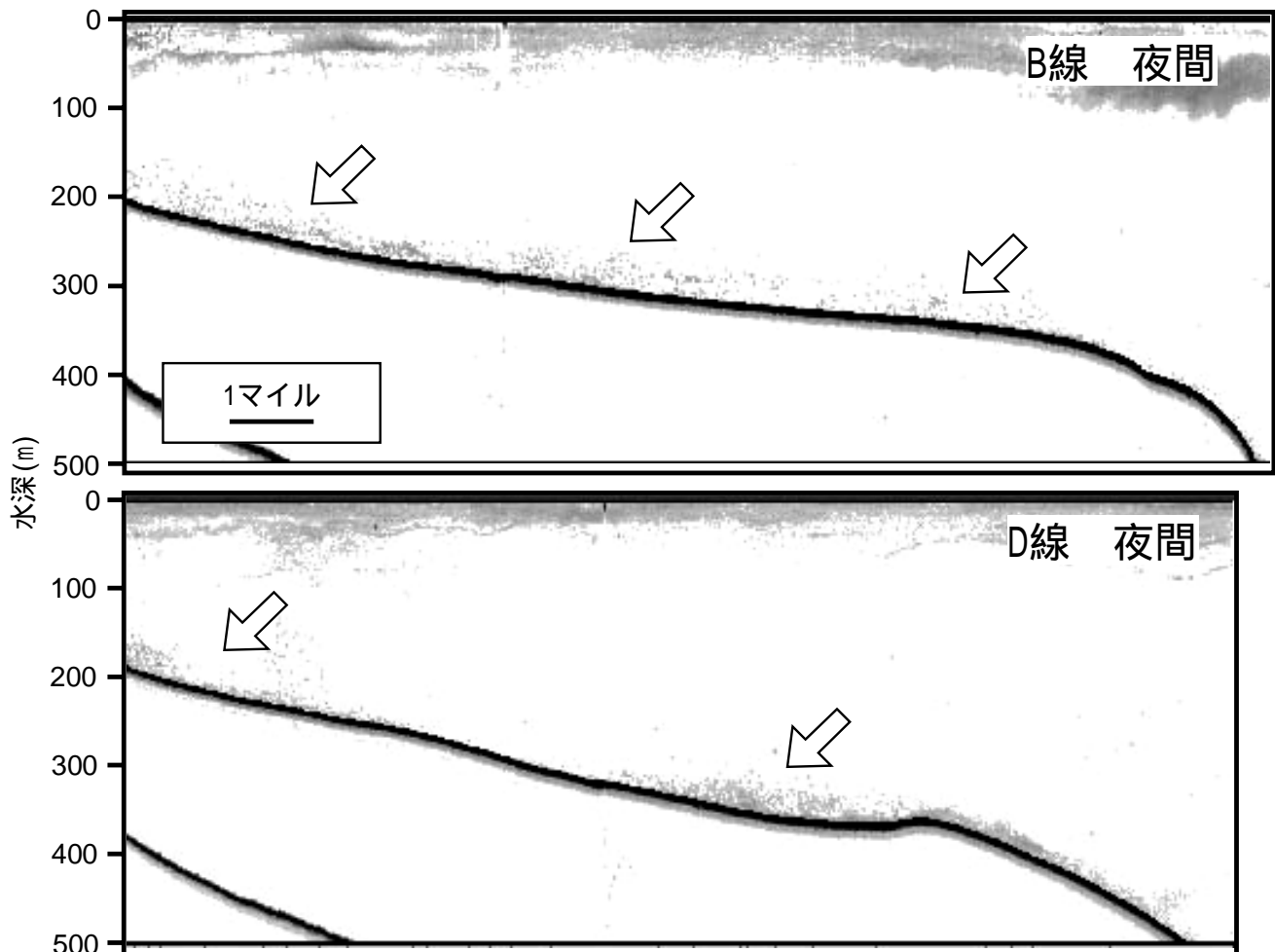


図2. 魚群の分布 (計量魚探画像)

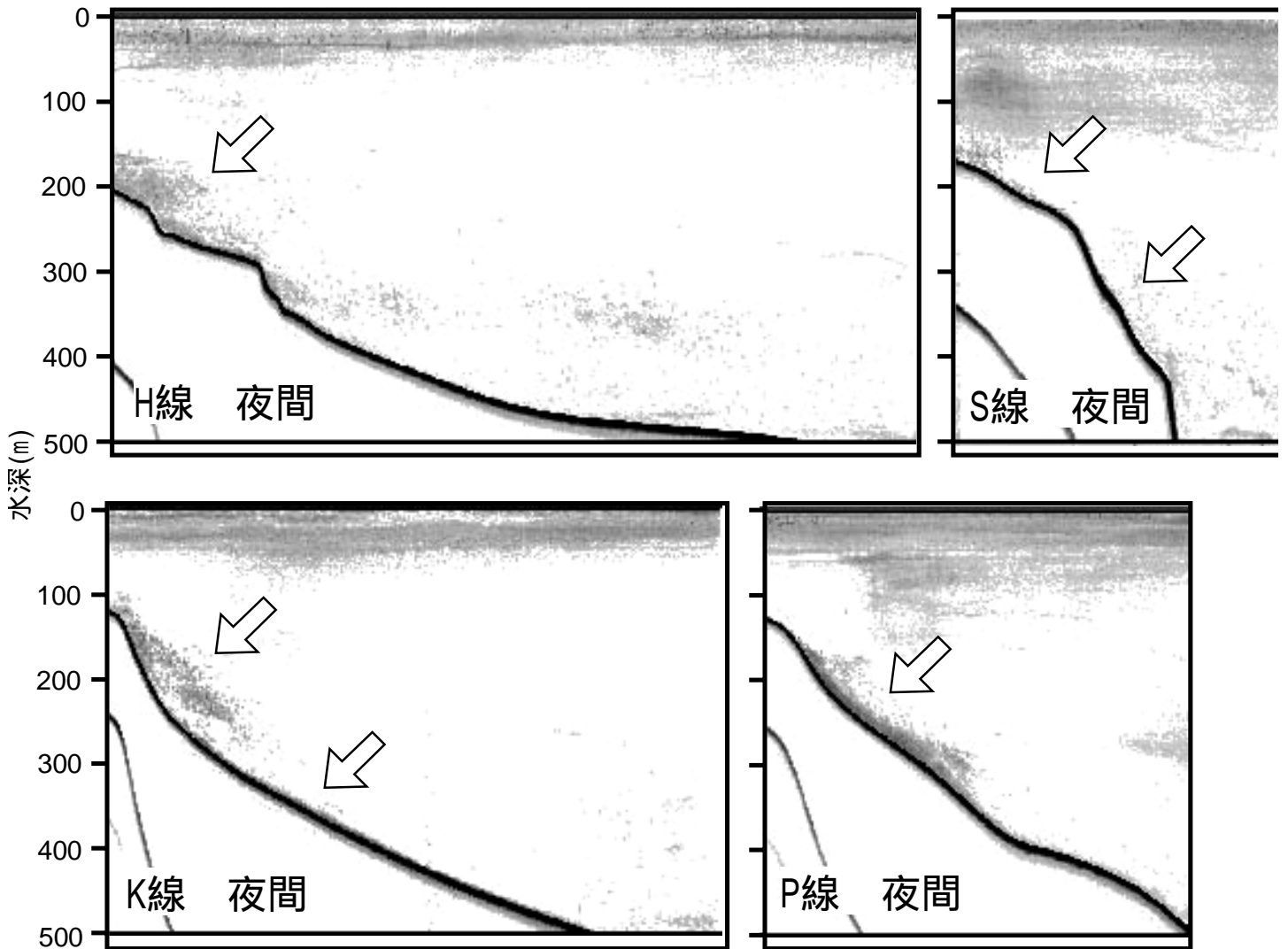


図2．魚群の分布（計量魚探画像）つづき

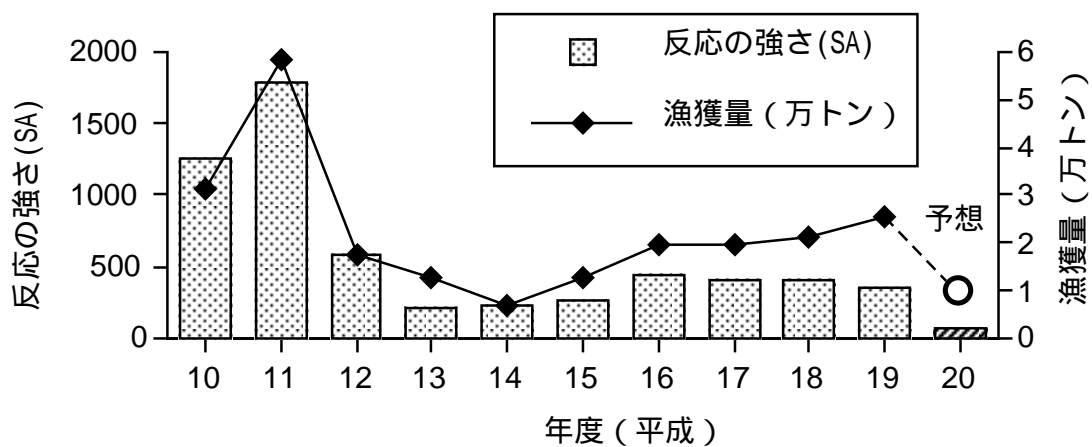


図3．魚探反応の強さ（棒グラフ）と10～11月の漁獲量（折れ線グラフ）の関係